

## 世界の人びとのためのJICA基金活用事業 終了時活動報告書

提出日： 2025年12月25日

<b>1. 案件の概要</b>	
(1) 案件名	マラウイ農村地域で住民運営によるSky Kids Academy幼稚園の教員能力向上及び組織強化
(2) 実施団体名	Orphan Affairs Unit (O.A.U.) Japan
(3) 団体所在地	香川県東かがわ市
(4) 団体ウェブサイト	<a href="https://www.instagram.com/sky_kids.malawi/">https://www.instagram.com/sky_kids.malawi/</a>
(5) 実施期間	2024年12月20日～2025年11月30日
(6) 実施国	マラウイ共和国
(7) 活動地域	リロングウェ県 カンゴマ地区、チレカ地区
<b>2. 活動概要</b>	
(1) 活動の背景	
<p>マラウイ農村部では、地域ボランティア主体のCommunity-Based Childcare Centres (CBCCs) による幼児教育が政府により推進されている一方、教育の質や運営体制、財政難といった課題により、十分に機能していない施設が多く、農村地域の児童が幼児教育を受けられる機会は限られている。</p> <p>O.A.U. の設立者であるHawaおよびTimothyは、孤児として民間CBCCsの支援を受け、高等教育を修了し自立した経験を有しており、同様の環境にある児童・若者への支援を目的に活動を開始した。JICA海外協力隊としてマラウイで幼児教育支援に従事した田村は、協力隊活動中に両名と出会い、帰国後も支援を継続し、O.A.U. Japanを設立した。</p> <p>その一環として、HawaとTimothyの要望をもとに、2020年10月にリロングウェ郊外カンゴマ地区にSky Kids Academy (SKA) 幼稚園部を共に設立し、日本の幼児教育手法を取り入れた教育と、学費回収による自立的な学校運営を進めてきた。生徒数は増加している一方、設立以降は遠隔支援が中心であったため、運営面および教育の質に関する現状把握には課題が残っており、今後は現地指導を通じた実態把握と改善計画の策定が必要となっていた。</p>	
(2) 活動の目標	
<p>1) Sky Kids Academy (SKA) の現状・課題の再確認を基に、現場での指導を通して、今後の方針や計画を立て、SKAの幼児教育における質向上および自主運営能力強化につなげる。</p> <p>2) 上記目的をもって、マラウイのCommunity-Based Childcare Centresのグッドプラクティスに貢献し、よりよい教育環境を農村地域の児童に提供する。</p>	
<b>3. 活動の結果</b>	
(1) 実施した内容	
<p>1) マラウイ共和国カンゴマ地区Sky Kids Academyでの学校運営・教育現場の現状把握及び指導</p> <p>【実施時期】2025年2月26日～2025年3月9日</p> <p>【内容】O.A.U. Japan田村と荒石が現場を訪問し、以下の活動を日本から同行した協力者と共に実施。</p> <p>①学校運営における状況把握：学校長と会計担当から情報収集</p> <p>②学校運営マネージメント指導＋今後の方針や改善点の協議</p> <p>③教員向けワークショップ実施：学校運営方針の共通認識形成、楽器や数学教材等の使用方法（協力者：日本語講師）</p> <p>④保護者向けワークショップ＋懇親会：感染症対策のための手洗いや衛生管理の情報を共有（協力者：看護師）</p> <p>⑤課外授業の実施：マラウイ柔道協会と連携し、カムズスポーツ・インスティテュートを訪問し、柔道体験クラスを開催（協力者：柔道家）</p> <p>* 訪問期間中、チレカ地区にてOAUが支援するMpunda centre幼児支援センターも視察。</p> <p>2) 本邦研修の実施：財務責任者であるダワ氏を日本へ招へいし、持続的な学校運営の為に収入創出活動や事業管理のヒントを得る機会を提供</p> <p>【実施時期】2025年6月28日～2025年7月27日</p> <p>【内容】O.A.U. マラウイ代表ティモシー・ダワ氏を日本に招聘し、教育機関・国際協力団体・国際交流イベント場等の視察および、訪問先にてマラウイでの教育事業活動等を発表。以下、訪問先一例；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在日マラウイ大使館、NGOセカンドハンドなど</li> <li>・教育機関：日本大学国際関係学部、香川大学経済学部、東かがわ市立大内小学校、愛和学園、東かがわ市立引田こども園など</li> <li>・国際関係団体、その他：東かがわ市国際交流協会、香川県青年海外協力隊を育てる会、養蜂施設など</li> </ul>	
(2) 実施結果	

## 1) マラウイ共和国カンゴマ地区 Sky Kids Academyでの学校運営・教育現場の現状把握及び指導

学校関係者と直接SKAの事業方針や財務状況を確認することで、これまで学校運営において不明瞭であった部分や、今後対応すべき課題が明確になった。また、ワークショップを通して学校運営関係者5名とSKAのVision、Value及び活動計画を共に作ることで、どのような学校にしていきたいか、その為にすべき事について、日本側も含め共通認識を図ることができ、今後の更なるSKAの事業発展への期待が高まった。持続的な学校運営に欠かせない経営・資金管理において、次の点を明確にした会計処理ルールを作成し共通認識を図った。

・学費回収期間と締切日・毎月の給料日・経理処理の記録方法・毎月の学費回収の目標値設定

マラウイ柔道協会と連携して実施した課外授業には児童41名が参加し、同協会所属のマラウイ人柔道家46名が指導にあたった。柔道を通じて、マラウイ人同士で礼儀や規律を学ぶ機会が提供された。また、保護者を対象としたワークショップには21名が参加し、児童とともに感染症対策を学ぶとともに、学校活動への理解と関心を高めることができた。

## 2) 日本研修の実施

来日したダワ氏は、日本の教育機関において、政府ガイドラインに基づき学習計画や安全・衛生、交通、避難、不審者対応等の各種計画が体系的に策定されている点に強い関心を示し、計画的な学校運営の重要性を理解した。また、学校清掃を生徒が担っている点を学びの一つとして挙げていた。これらの視察を通じて、学校経営者に加え、生徒や保護者が主体となり学校を継続的に運営していくための示唆を得ることができた。また、養蜂家や蜂蜜ショップの訪問から、蜂蜜の市場ニーズに係る理解を深め、マラウイで生産している蜂蜜のポジショニングを考える契機となった。

## (3) 事業を実施して得られた教訓など

現地訪問を通じて、学校長をはじめ教員が真摯に学校運営に取り組んでいる姿勢を確認することができた。遠隔支援中心の体制に対する懸念はあったものの、4年間にわたり現地主体で学校運営が継続されてきた実績を高く評価し、相互の信頼関係に基づき事業を推進する重要性を再認識した。

また、マラウイ柔道協会との連携により、児童に柔道や礼儀といった新たな学びの機会を提供することができた。比較的少額の予算で実施可能であり、教育効果も高いことから、今後は他団体との連携も含め、教育の機会や児童の視野を広げる取組を継続的に検討していきたい。

さらに、学校および幼児支援センターの運営財源確保の取組として、チレカ地区Ppunda Centreにおける養蜂事業による収入創出事例を確認した。同様の取組はSKAでも実施可能であり、今後は保護者への紹介や展開を検討する余地がある。

## (4) 今後の活動・フォローアップの方針

### ■SKA運営について

- ・学校教師登録の完了
- ・学校建設プランの作成・土地購入にかかる計画作成（クラス数やそれに応じた教員数の確保に係る計画含む）現地スタッフの思いを更に言語化し、具体的な活動に落とし込んでいく。
- ・SKA保護者への関取りによる、SKAのマーケティング強化
- ・農業プロジェクト用口座開設及び新たな帳簿の作成
- ・マラウイ柔道協会との今後の連携アイデア模索

### ■OAUチレカ地区 Mpunda centre幼児支援センター視察

- ・養蜂事業の展開（ダワ氏の本邦研修の成果の1つとして、日本の市場ニーズやマラウイ蜂蜜の売出し方を検討していく）養蜂事業で得た収益を、支援センター関係者の収入や幼児の奨学金に活用する予定。

## 4. 活動中のエピソードなど

課外授業の一環として児童が柔道場を訪問した際、マラウイ人柔道家が児童の脱いだ靴を丁寧に揃え、整頓する姿が見られた。また、道場での作法や礼儀について、楽しさを交えながらも真剣に指導する様子が印象的であった。柔道を通じて、10代・20代の年長の若者から、同じマラウイ人同士で礼儀や社会性を学ぶ貴重な機会となったことを、関係者一同実感した。

本取組は、児童の人間形成に資する有効な教育機会であると考えられることから、今後はマラウイ柔道協会との連携を一層強化していきたい。なお、本件について在マラウイ日本国大使館の大矢大使に報告したところ、高い関心が示され、その後、同大使によるSKA訪問も実現した。

## 5. JICA基金活用事業を実施したことで団体にとって良かった点・成長に繋がった点

活動資金が限られており、日本側関係者が揃ってマラウイを訪問し現地視察を行うことは困難な状況であったが、JICA基金を活用することで現場視察を実施することができた。これにより、これまで把握できていなかった実情を確認できただけでなく、現地職員によって学校運営が堅実に継続されていることを実地で確認するという大きな成果が得られた。また、本視察を通じてマラウイ側パートナーとの信頼関係が一層強化され、今後も継続的に対話を重ねながら事業を推進していくための原動力となった。

さらに、マラウイ人スタッフであるダワ氏の日本招へいについても、同基金の活用により実現した。ダワ氏自身の学びにとどまらず、日本国内の教育機関や団体を訪問し活動発表を行ったことで、学生や一般市民に対し、マラウイをはじめとする開発途上国の現状や国際協力への理解を促す機会となり、多様性の理解促進にも一定の貢献があったと考えられる。

これらの取組を通じ、団体として新たな関係者とのつながりを広げることができ、協力者とのネットワーク構築の面でも有意義な成果が得られた。

## 6. 活動の写真



SKA学校スタッフとの運営改善会議の様子



現地訪問し音楽教材指導の様子



児童及び保護者に向けたワークショップ



課外授業での柔道体験の様子



タワ氏の本邦研修時の様子  
(愛媛県松前町認定こども園にて)



タワ氏の本邦研修時の様子  
(香川県高松市立木太中学校にて)